

◆『はじめまして会計学』Traning 解答

第1章

1-1

①	②	③	④
貨幣的測定	継続企業	期首	期末
⑤	⑥	⑦	⑧
貸借対照表	損益計算書	有価証券報告書	EDINET

1-2

資 産	② ④ ⑦ ⑬	収 益	⑧ ⑫
負 債	① ⑪	費 用	③ ⑤ ⑨ ⑩
純資産	⑥		

1-3

①	②	③	④	⑤
× 上場企業	○	× 純資産合計	× ある	× 運用形態

第2章

2-1

1. (借方) 2. (増加) 3. (減少)
 4. (貸方) 5. (借方)

2-2

①	②	③	④	⑤	⑥
¥1,000	¥4,200	¥2,400	¥3,400	¥700	¥700
⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
¥1,000	¥100	¥2,800	¥2,200	¥1,400	¥200
⑬	⑭	⑮	⑯		
¥1,100	¥1,600	¥900	¥900		

2-3

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	仕入	20,000	現金	20,000
2	現金	60,000	売上	60,000
3	現金	30,000	借入金	30,000
4	貸付金	20,000	現金	20,000
5	支払利息	1,000	現金	1,000

第3章

3-1

①	②	③	④	⑤	⑥
財産法	損益法	流動資産	固定資産	取得原価	時価

3-2

①	②	③
¥800	¥700	¥200

第4章

4-1

①	②	③
営業損益計算	純損益計算	販売費及び一般管理費
④	⑤	⑥
営業損失	営業外収益	営業外費用

4-2

①	②	③	④
700	600	80	200

第5章

5-1

- ① 売上高総利益率 $800/1,000 \times 100 = 80\%$
- ② 売上高営業利益率 $100/1,000 \times 100 = 10\%$
- ③ 売上高経常利益率 $105/1,000 \times 100 = 10.5\%$
- ④ 売上高当期純利益率 $51/1,000 \times 100 = 5.1\%$
- ⑤ 総資産経常利益率(ROA) $105/800 \times 100 = 13.125\%$
- ⑥ 自己資本利益率(ROE) $51/350 \times 100 = 14.5714\%$

5-2

・ ROA

$$\begin{aligned} 13.125\% &= 105/1,000 \times 100 (\text{売上高経常利益率}) \times 1,000/800 (\text{総資産回転率}) \\ &= 10.5\% \times 1.25 \text{ 回} \\ &= 13.125\% \end{aligned}$$

・ ROE

$$\begin{aligned} 14.5714\% \dots &= 51/1,000 \times 100 (\text{売上高当期純利益率}) \times 1,000/800 (\text{総資産回転率}) \div \\ &\quad 350/800 (\text{自己資本比率}) \\ &= 5.1\% \times 1.25 \text{ 回} \div 0.4375 \\ &= 14.5714\% \end{aligned}$$

第6章

6-1

- ① 流動比率 $500/350 \times 100 = 142.85\%$
- ② 当座比率 $300/350 \times 100 = 85.71\%$
- ③ 固定比率 $550/300 \times 100 = 183.33\%$
- ④ 固定長期適合率 $550/(400+300) \times 100 = 78.57\%$
- ⑤ 自己資本比率 $300/1,050 \times 100 = 28.57\%$
- ⑥ 負債比率 $750/300 \times 100 = 250\%$

6-2

・ 売上債権手持月数 $= 220/(600 \div 12) = 4.4$ カ月

・ 買入債務手持月数 $= 140/(400 \div 12) = 4.2$ カ月

→ 売上債権手持月数 > 買入債務手持月数 よって、会社のお金の出入りは安定していない。

第7章

7-1

①	②	③
¥4,500	¥5,000	¥7,000

7-2

①	②	③	④	⑤
固定費	固定費	固定費	変動費	変動費

7-3

①	②
100 個	300 個

第 8 章

8-1

①	②	③
△¥2,400	△¥4,400	¥2,000

8-2

①	②	③
△¥800	△¥1,800	¥1,000

8-3

①	財務	顧客
	内部業務プロセス	学習と成長
②	財務	
③	内部の視点：財務、内部業務プロセス、学習と成長	
	外部の視点：顧客	

第 9 章

9-1

解答：F 社からの製品 X の新規注文を引き受けるべきである

解説

新規注文を受けた場合に発生する売上高と変動費は次のとおりである。

したがって、新規注文を引き受けることで 500 円の限界利益が追加的に得られる。

追加的に発生する売上高 @50×100 個=5,000 円

追加的に発生する変動費 @45×100 個=4,500 円

追加的に発生する限界利益 500 円

なお、この問題では E 社の月間生産能力が 500 個であるのに対して、12 月の製品 X の生産予定数が 400 個であり、製品 X の新規注文は余剰となっている生産能力を活用するので、追加注文では固定費について考える必要はない。また、変動販売費 10 円のうち 5 円は F 社が負担するので、E 社が負担する変動費は $40 + (10 - 5) = 45$ 円となる。

9-2

解答：機械 V を導入した方が有利である

解説

回収期間法によって機械 V と機械 W の回収期間を計算すると次のようになる。

・機械 V：2,266 万円÷515 万円=4.4 年

・機械 W : 1,634 万円 ÷ 344 万円 = 4.75 年

第10章

10-1

	直接税	間接税
国 税	所得税、法人税、相続税	消費税、酒税
地方税	住民税、事業税、固定資産税	地方消費税、地方たばこ税

10-2

$$\begin{aligned} \text{課税所得金額} &= \text{¥1,500,000} + \text{¥110,000} + \text{¥290,000} - \text{¥350,000} - \text{¥130,000} \\ &= \text{¥1,420,000} \end{aligned}$$

10-3

① 年800万円以下の所得金額についての法人税額

$$8,000,000 \times 15\% = 1,200,000 \text{円}$$

② 年800万円超の所得金額についての法人税額

$$(20,000,000 - 8,000,000) \times 23.2\% = 2,784,000 \text{円}$$

$$\text{①} + \text{②} = 3,984,000 \text{円}$$

第11章

11-1

①	②	③	④
保証	信頼	外部監査 (または法定監査)	内部監査
⑤	⑥	⑦	⑧
無限定適正意見	不適正意見	監査人	会計監査人

11-2

①	②	③	④	⑤
オ	イ	ア	エ	ウ

第 12 章

12-1

料 理	会 計
食材	取引
レシピ	会計基準
料理人	会計担当者
調理	会計処理
でき上がった料理	財務諸表
料理を食べる人	財務諸表の利用者
味見役・毒見役	監査人

12-2

略 称	名 称	本部所在地	会計基準の名称
IASB	国際会計基準審議会	英国 ロンドン	国際会計基準 国際財務報告基準
FASB	財務会計基準審議会	米国 ノーウオーク	財務会計基準
ASBJ	企業会計基準委員会	東京	企業会計基準

12-3

① 連結財務諸表	② 公正価値評価	③ 原則主義
----------	----------	--------

第 13 章

13-1

(借方) 仕入 xx (貸方) 現 金 xx (現金払い)
(借方) 仕入 xx (貸方) 当座預金 xx (小切手払い)
(借方) 仕入 xx (貸方) 買 掛 金 xx (掛仕入れ)
(借方) 仕入 xx (貸方) 支払手形 xx (手形取引)

13-2

- ・財務報告の公開
- ・クラウド

13-3

① 置き換わる部分	仕訳・計算などの事務作業
② 置き換わらない部分	会計の数字から企業経営に役立つ情報を読み取り、経営者にアドバイスする仕事

